

## 【解説】

本巻（史料編10「近現代Ⅱ」）には、(一)「皇国地誌」の松江地域関係分のうち、『松江市史』史料編9「近現代Ⅰ」に収録できなかった「秋鹿郡誌」<sup>あいか</sup>「秋鹿郡村誌」<sup>あいか</sup>「鳥根郡誌」<sup>あいか</sup>「鳥根郡松江地誌」の四点（口絵【1】）、(二)通史編5「近現代」の基礎となる史料、(三)松江市の人口・財政に関する統計等と松江地域出身・関係主要著名人一覧を収録した。

## (一)「皇国地誌」(続)

明治政府の事業としての「皇国地誌」の編纂経過については、前巻「近現代Ⅰ」の「解説」に記した。同巻および本巻に収録した、松江地域関係の「皇国地誌」の編纂・残存・所蔵状況は【表1】の通りである（田村 一九六〇）。本巻には、【表1】に掲載した鳥根県立図書館所蔵の四点を収録した。そのうち、「鳥根郡誌」「鳥根郡松江地誌」は一八八一年（明治十四）に編成されたもので、「鳥根郡村誌」「出雲国意宇郡誌」「意宇郡松江地誌」と同様に、境二郎県令の下で湯本文彦修史係・太田春造修史御用係が調査・編成に当たっている。これに対し、一八八〇年（明治十三）一月に編成された「秋鹿郡誌」「秋鹿郡村誌」は、修史係が清水清太郎となっている。「鳥根県職員録」によれば、清水清太郎（山口県土族）は一八七七年（明治十）に御用係七等属として載せられ、一八八〇年には庶務課七等属となっている。また太田春造（鳥根県土族）は一八八〇～八一年に庶務課御用係準判任とされている。なお、『明治二年鳥根県歴史附録<sup>田松江藩</sup>田松江藩<sup>田松江藩</sup>官員履歴』には明治四年（一八七二）七月に松江藩少参事に任ぜられた太田春造が見えるが、同一人物かどうかは未詳である。清水・太田の両人の実績は不明であるが、湯本については先行研究でその経歴と実績が明らかにされている。

湯本文彦は、天保十四年（一八四三）鳥取藩士湯本又三郎信好の長子として生まれ、一九二二年（大正十）京都で没した。この間、国学・漢学を学び、明治五年（一八七二）から一八七九年（明治十二）まで因幡国一宮の宇倍神社の神官（権禰亘・権宮司）を務めた後、一八八〇年（明治十三）一月に鳥根県修史御用係に採用され、同年八月には修史科長、一八八二年（明

【表1】 松江市域関係の「皇国地誌」一覧

郡村誌名	編成年月日	県 令	修史係・ 修史科長	修史御用係
1 秋鹿郡誌	1880年1月7日	境二郎	清水清太郎	太田春造
2 秋鹿郡村誌	1880年1月7日	境二郎	清水清太郎	太田春造
3 島根郡誌	1881年6月1日	境二郎	湯本文彦	太田春造
4 島根郡松江地誌	1881年6月1日	境二郎	湯本文彦	太田春造
5 島根郡村誌	1881年6月1日	境二郎	湯本文彦	太田春造
6 出雲国意宇郡誌	1881年10月6日	境二郎	湯本文彦	太田春造
7 意宇郡松江地誌	1881年10月6日	境二郎	湯本文彦	太田春造
8 意宇郡村誌	所在不明	1878～1880年に提出（*）		

出典：表示した各郡誌・村誌・地誌および田村清三郎『明治初年の県政』

今井書店、1966年（\*）により作成

注：①1～4は本巻に収録、

5～7は「近現代I」に収録。

②1～4は島根県立図書館所蔵、5～7は島根県公文書センター所蔵。

治十五）二月には学務課長兼修史科長として「島根県歴史」「皇国地誌」の編纂に従事した後、松江中学校長・松江師範学校長を兼任し、一八八三年（明治十六）に退職して米子中学校長に転じた。その後、一八八八年（明治二十）十二月京都府に採用されて社寺・名勝・旧蹟を担当した後、一八九三年（明治二十）平安通志編纂主事となった。これと並行して、一九〇九年（明治四十二）末に旧鳥取藩主の池田家から鳥取藩史の編纂を依託されてこれに従事し、一九一八年（大正七）に病気のため休職した際、その原稿を提出した（山中 一九六一）。このように湯本は、島根県・京都府・鳥取県で歴史・地誌の編纂事業の中心になっていた。島根県における湯本の修史事業（「島根県歴史」の編纂）について、山中は、政治の得失から風俗や人物の行為に至るまで真実を後世に伝えることに修史の意義を求め、彼の実証的な史学思想を評価し、それが鳥取藩史編纂事業でも発揮されたことを明らかにしている（山中 一九六一）。

また、小林丈広は、「自治体史の先駆け」として位置づけられる『平安通志』編纂事業を主導した、京都府の修史事業における湯本の役割を明らかにした（小林 二〇〇五）。山中・小林の研究と「近現代I」の「解説」で紹介した太田富康（太田 二〇一〇）・佐藤大吾（佐藤 二〇一六）の研究によって、島根県における修史事業・地誌編纂事業で果たした湯本の役割を知ることができる。

湯本が担当した「皇国地誌」の調査・記録は「近現代I」の「解説」で述べたように詳細なものである。この「皇国地誌」によって、明治初年の松江市域の地理・産業・文化状況を、市域全般、郡、近世の村・町という三つの単位で確認し、比較検討できる。今、試みに、「秋鹿郡村誌」「島根郡村誌」と「島根郡松江地誌」「意宇郡松江市誌」の記載事項によって、町・村と区という行政区画の変遷、区会所・郵便取扱所・小学校の位置、船・人力車・物産の記述を整理して一覧表にすると【表2】【表3】の通りである。この二表によって、町・

村・浦を基礎単位として区に括られていた、「皇国地誌」に記載された地域編成と、その中で区会所・郵便取扱所・小学校が所在する中心的な町・村・浦の位置を確認することができる。また、船に注目すると、松江市域の中心部である島根郡二十二町・意宇郡十一町の中の新町しんまちを除く全町に荷船があり、町場でも水路・河川・宍道湖を利用した水運が大きな意味を持つていたことが分かる。これを秋鹿郡・意宇郡の各村について見れば、漁船のある村と荷船のある村が分かれていることから、物産の記述と併せて生業の相違と特徴を確認することができる。さらに、人力車は、一八七三年（明治六）一月三十一日に出された「時勢ニ応シ有志ノ輩ハ人力車ヲ運轉シ以テ便利ヲ通シ營業ヲ開クヘキ事ヲ管内ニ布ク」（史・近現代I 121頁）との布達によって推奨されていたが、それから三年後の一八七六年（明治九）一月一日調査で各町の保有状況を確認することができる。

これまで、島根県内では、「皇国地誌」は自治体史の編纂に際して、当該地域に関する記述が部分的に利用されるにとどまっていたが、今回、松江市域関係の「皇国地誌」の残存部分をすべて翻刻・刊行したことで、さらに多角的に分析され、多様に利用されることが期待される。

（竹永三男）

【表2】 松江の町（島根郡・意宇郡）の構成と「皇国地誌」にみる地域の特徴

郡	「皇国地誌」の記載		「市政」施行 (1889年)後、 現在に至る 行政区画	「皇国地誌」記載の地域の特徴							
	「皇国地誌」記載の 区会所（○）とその 管轄下の町			日本型船		人力車	荷車	物産	人民共立 小学校		
	町	区会所		漁船	荷船 50石 未満 50石 以上						
島根郡 二十二町	殿町	○	松江市		31					○	
	母衣町				35		1				
	米子町				14		4				
	南田町				100					○	
	北田町				88					○	
	北堀町 干	○			19		11			○	
	石橋町				31		3			②	
	奥谷町				76		7			○	
	内中原町	○			75					②	
	外中原町				38		2			○	
	中原町				8	46		1			
	末次町	○				21	1				
	苧町				10		7			○	
	片原町				15		5				
	西茶町				24		2				
	東茶町	○				11		6			
	本町					10		7			○
	紙屋町					5		3			
元材木町				5							
魚町				8		1					
新材木町			53	75		8		鱈、鰻魚、 砂魚、氷魚			
鍛冶町		42	22				鱈、鰻魚、 砂魚、氷魚				
意宇郡 十一町	本町	○			4	4					
	八軒屋町				11	2					
	和多見町				131	4	12	1	鱈、鱒、鰻、 砂魚、白魚、 蝦、清酒	○	
	寺町				8		12	1	人参	○	
	天神町	○			7	1	2	3	綿弓弦	○	
	魚町 干				27	4	2	1			
	灘町				22		8			○	
	堅町				45	2	4	2	清酒、酢、 醤油、菓子	○	
	横浜町				15	1	5	1	清酒、焼酎、 酢、醤油、 菓子		
	新町						2	1		○	
雑賀町	○			35		27	1	蠟燭、醤油、 干饅頭、素 焼風爐、編 籐煙管筒	②		

出典：「島根郡松江地誌」（1881年編成）、「意宇郡松江地誌」（1883年編成）により作成

注：【表2】【表3】に共通する注を次ページの【表3】末尾欄外に掲げた。

【表3】秋鹿郡・島根郡の行政区画の変遷と「皇国地誌」にみる地域の特徴（続き）

郡	「皇国地誌」の記載		その後の行政区画				「皇国地誌」にみる地域の特徴											
	「古時属 セシ」 郷・里	「皇国地誌」記載 の区会所（○） とその管轄下 の村・浦	「町村制」下の村		戦後	日本型船		物産	人民共立 小学校									
			1889年			漁船	荷船											
						50石 未滿	50石 以上											
島根郡 四十一村・十六浦	手染郷	別所村	本庄村					榎実	○									
		手角村						29										
		下宇部尾村						55		生茶、梨子								
	美保郷	森山村 千	森山村						甘藷、榎実、桐油実	○								
		福浦							111		干鰯、榎実、桐油実							
	千酌駅	菅浦・ 元北浦と一村	片江村						干鰯、榎実	○								
		片江浦							57									
	片結郷	七類浦	片江村						鯛、烏賊、鮑、鰯、和布、荒布、榎実	○								
		諸噉浦							166		鯛、烏賊、鮑、鰯、和布、荒布、榎実							
	美保郷	雲津浦	美保関村						鯛、干鰯、鰯、桐油実、榎実、海苔、 和布、荒布、薪	○								
美保関千		69							鯛、烏賊、干鰯、海苔、和布、甘藷									
		40							鯛、干鰯、鰯、桐油実、榎実、海苔、 和布、荒布、薪									
						135	116	1	干鰯、干鰯、鰯、海苔、竹器類	○								
秋鹿郡 十八村・五浦	神戸里	浜佐陀村	古志村					89	鯉・鮒・鱈・鰯									
		西谷村						19	藁席・楮									
		古志村						56	藁席									
		荘成村	古志村 1908年						薪	○								
		古曾志村							6		藁席							
		東長江村							14		瓦							
	多太郎	西長江村	長江村						14	瓦								
		秋鹿村							秋鹿村							63	24	鯛・鰯・鮓・鰯・鰯・岩貝・牛蒡
		秋鹿町 千														7	牛房	
	岡本村	7	荳	○														
	恵曇郷	佐陀宮内村	佐太村						6	酒・薪								
		佐陀本郷村							8	枇杷・清酒								
		武代村							91	干鰯・生鰯・鮓・鯖・葉藍		○						
	恵曇郷	江角村	恵曇村						58	鰯・鮓・干鰯・和布	○							
		古浦							81	鯛・鰯・鰯・鮓・鯖・鮓・海苔・和布								
	加賀郷	片句浦	秋鹿村						103	鯛・鰯・鮓・鮓・鯖・和布	○							
		手結浦							16	藁席								
	大野郷	大垣村	大野村						16	16	藁席	○						
大野村上分																		
大野村下分																		
魚瀬浦																		
伊農郷	地合浦	伊野村						51	鯛・鮓・鯖・鮓・荒布・和布・海苔・ 神馬藻	○								
	野郷村																	
	美野村							7	6		生人参・藁席	○						

出典：「秋鹿郡村誌」（1880年）、「島根郡村誌」（1881年）、「一市六郡合併町村取調書」（1888年。本巻所収史料第2章第1節1）により作成

注：①町・村・浦名の次の「千」は郵便局（郵便取扱所）を示す。

②「日本型船」欄の「荷船 50石以上」欄の記載事項の詳細は次のとおり。

意宇郡本町 50石以上200石未滿 2艘 200石以上500石未滿 2艘

意宇郡魚町 50石以上200石未滿 1艘 200石以上500石未滿 3艘

意宇郡堅町 50石以上200石未滿 1艘 200石以上500石未滿 1艘

意宇郡横浜町 200石以上500石未滿 1艘

③「人民共立小学校」欄の「○」は小学校1校、「②」は小学校2校を示す。

（竹永三男）

【表3】 秋鹿郡・島根郡の行政区画の変遷と「皇国地誌」にみる地域の特徴

郡	「皇国地誌」の記載		その後の行政区画				「皇国地誌」にみる地域の特徴						
	〔古時属 セシ〕 郷・里	〔皇国地誌〕記載 の区会所 (○) とその管轄下 の村・浦	〔町村制〕下の村		戦後		日本型船		物産	人民共立 小学校			
			1889年		漁船	荷船	50石 未満	50石 以上					
島根郡 四十一村・十六浦	加賀郷	御津浦	○	御津村	鹿島町	169			榎実、桐油実、海苔、和布、神馬草、鰯、鯖、烏賊、干鰯	○			
		大芦浦 干		大芦村		123			鰯、鮫、干鰯、海苔、和布、天草	○			
	加賀浦	加賀村	145	8			和布、海苔、桐油実、炭、薪	○					
	千酌駅	野波浦	○	野波村	島根町	88	114		鯛、鱒、鮑、栄螺、海鼠、鰻、海苔、和布	○			
		多古浦				89			鯛、鮑、和布、海苔	○			
		野井浦				88			鯛、鯛、干鰯、和布	○			
		笠浦		97			鯛、鯛、干鰯、和布	○					
		千酌浦 干		36		美保関町			飯、鱒、雑漁	○			
		北浦・元菅浦と一村		73					飯、烏賊、鯛、鯖、鮑、栄螺、干鰯、和布、海苔、荒布	○			
	多久郷	北講武村	○	講武村	鹿島町						○		
		南講武村											
	神部里	上講武村	○	生馬村	松江市				榎実、桐油実、藤布				
		名分村				10			生茶				
	生馬郷	下佐陀村	○	法吉村	松江市			19	蘭席				
		上佐陀村						4	蘭席				
		浜佐陀村						36					
		薦津村						19		芹、蘭席			
		西生馬村									松茸	○	
		東生馬村 干									生茶、薪		
	法吉郷	国屋村	○	法吉村	松江市			5	独活				
		比津村						3	生茶				
		末次村						3					
		黒田村						26	芹			○	
		春日村						2					
		奥谷村						3					
	山口郷	菅田村・末次村支村	○	西川津村	松江市			29					
		西川津村		川津村 1903年				157		鯉、生茶、生人参、榎実、米、葉藍、生鰯、陶器	○		
		下東川津村		東川津村						生人参、榎実			
		上東川津村								生人参、煙草、榎実			
	朝酌郷	西尾村	○	朝酌村	松江市			79	榎実、生茶、甘藷、薪				
		朝酌村						65		鯉、生茶、薪	○		
		福富村						26		鯉、燕			
		大井村						34		赤貝、生茶、榎実	○		
		大海崎村						67		赤貝、薪、大海崎石			
	余戸里	山口郷	○	本庄村	松江市								
		川原村								薪			
		？ 西持田村									桐油実、薪	○	
		？ 東持田村									西瓜、薯類		
		？ 坂本村									生人参	○	
		？ 福原村									柿、薪	○	
		邑生村						4			榎実、松茸、柿、薪		
		新庄村						12			海老、蜘蛛蛸、沙魚、薯藷、桐油実、生茶		
本庄村 干			87			赤貝、榎実、薪	○						
上宇部尾村			6										
野原村			27										
長海村							薪						